

BUDŌ

NEWS

今月のニュース



馳浩文部科学大臣（右）へ大島章宏武道議員連盟副会長・理事長から決議文が手渡される

平成 28 年武道振興大会

武道の振興・発展を因る 支援・施策を要望



挨拶に立つ松永光日本武道協議会・日本武道館会長

平成28年武道振興大会（主催）武道議員連盟・日本武道協議会・日本武道館）が3月2日、東京・永田町の憲政記念館で開催された。

大会には国会議員や武道関係者約250名が出席。中学校武道必修化が成功するための条件整備、特に授業時間数を増やし、複数種目の実施校拡大を図ることや、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の成功に向けて、柔道、空手道への支援を強力に推進することなどを要望する決議文が満場一致で採択され、馳浩文部科学大臣に手渡された。

大会には、武道議員連盟に加入する国会議員71名、文部科学省、スポーツ庁、日本武道協議会・日本武道館役員ほか、関係者250名が集まった。定刻の正午、三藤芳生日本武道館理事・事務局長の司会により、北川知克武道議員連盟理事・事務局長の開会宣言が始まった。

最初に主催三団体を代表して高村正彦武道議員連盟会長が登壇し、挨拶を行った。

「平成24年、武道関係者の皆様方の念願が叶って、中学校武道必修化に

なった訳であります。幸いなところ、授業に関する限りは今まで極めて大過なく行われていきます。武道授業は、武道を通じて心と体を鍛え、そして日本人の美しい心を取り戻す、こう

いう壮大な目標を持って実施したのではありませんから、大過ないだけでは成功という訳にはいきません。やはり武道に触れる以上、武道の真髄に触れて頂きたい。現代武道9種目のうち、礼に始まって礼に終わる、あるいは技を習得する中で心と体を鍛える、その中で人間が生きるべき道を求める、そういった共通点、それぞれの良さに武道の真髄があると思います。この武道の真髄に中学生たちが触れて頂くためには、何が何でも武道関係者のご協力が絶対に必要です。どうか、武道関係者の皆様方、今まで以上に積極的にこの武道の授業に参加して頂きたいと思えます」

次に、松永光日本武道協議会・日本武道館会長が挨拶を述べた。

「武道振興大会は、多くの皆様方のご参加を頂いて、ますます武道の振興・発展を広げ、強めていく大会になりました。私は昔から、皆が武道



馳浩文部科学大臣



松永光日本武道協議会・日本武道館会長



高村正彦武道議員連盟会長



大島章宏武道議員連盟副会長・理事長



山崎正昭参議院議長



大島理森衆議院議長・武道議員連盟副会長

精神を持ち、武道によって体を鍛えることで、日本の発展に大きな力を出すと思っております。その意味で、武道の振興・発展と普及こそは、日本の将来の発展にとって、ますます大事なこととなります。特に青少年の育成のためには、青少年全員に武道を学んでもらうことが一番大事なことであると思えます。日本武道館としても、特に青少年に対し、武道を通じて、強くたくましい日本人となるための活動に、ますます力を入れていきたいと思っております」

続いて、大島章宏武道議員連盟副会長・理事長が大会決議文を朗読。満場一致の拍手で採択された決議文が、大島副会長から馳浩文部科学大臣に直接手渡された（決議文別掲）。

来賓祝辞では、大島理森衆議院議長・武道議員連盟副会長が登壇し、「昨年は戦後70年という節目でございました。大先輩たちはこの素晴らしい日本をつくってくれた訳ですが、失われた日本人の心もあるのではないかと思えます。武道はまさにこの失われた部分もしっかりと埋め、日本人の持つ素晴らしい心を継承して頂けると思う次第でございます

す。日本の武道が、世界にも発信する最大のものになってきていると思えます。大事なことはまさにこの武道の精神をしっかりと根底において世界に広めて頂くこと。その役割をみなさんは大きく背負われていると思います」と述べた。

続いて、山崎正昭参議院議長が登壇し、「我が国は古来、忠義礼節を美徳とし、高く自らを律することを重んじ、無類の精神文化と、規律ある社会を築き上げてまいりました。武道はこの日本の心をまさに体現するものでありまして、日本固有の伝統と文化を、今に継承するという大きな使命を果たしております。さきほど武道振興に関する決議が、満場一致で採択されました。私もその趣旨に強く賛同する一人でございます。特に時代を担う青少年が武道を通じ、心技体を鍛錬し、我が国固有の伝統と文化を体得するとともに、他者への思いやりの心を育むことは、誠に意義深いことであると存じます」と述べた。

さらに馳浩文部科学大臣が登壇し、「今ほど決議文と要請を頂きました。しっかりとやります。武道振興

については、全国の現場で携わっておられる方々、皆さんの期待に応えられるように取り組みたいと思います。武道は時代を超えて、人間関係をつなぐことができます。それが武道の良いところでございます。武道という言葉の重みを噛み締めて、今後とも武道振興に取り組んでいきたいと思えます」と述べた。

その後、安倍晋三内閣総理大臣の祝辞(別掲)が披露された。続いて、武道9団体の代表者挨拶へと移った。その後の懇親会では、臼井日出男日本武道協議会・日本武道館理事長が「今年には衆参両議長が揃い踏みでご参加を頂きました。この大会を機に、さらに武道が進展いたしますよう、引き続きのご協力を心からお願いするとともに、皆様方のご健勝・ご多幸をお祈り申し上げます」と述べ、力強く乾杯の発声を行った。懇親会では、出席者は和やかな雰囲気の中、武道必修化のさらなる充実へ向け、大いに歓談した。

午後1時過ぎ、高木陽介武道議員副会長が出席者へ感謝の言葉と、「今日決議をした要望を、文部科学省に任せるのではなく、しっかりと政治の



場で取り組んでいくことをお誓い申し上げます」と抱負を述べ、武道振興大会は盛会の裡に幕を閉じた。

決議

我が国は、明治維新以来、驚異的な勢いで国力を増し、世界有数の経済大国となった。しかし、ここ十年來、国際情勢が厳しさを増す中、国力の低下が目立ち、少子高齢化や道徳心の乱れが相俟って、国家、社会の将来を暗いものにしつつある。五年前の東日本大震災の爪痕は深く、復旧・復興は未だ道半ばである。

そのような折、国は国家再生へ向け、「国と郷土を愛する心、公共の精神、生命、伝統や文化の尊重」を盛りこんだ教育基本法の改正を実現した。また、三年前には、東京で二〇二〇年にオリンピック・パラリンピック大会を開催することが決定した。誠に、ご同慶の至りである。

翻って、武道は、国民精神の根源、即ち武士道精神の真髄を基調とする、体・徳・知を一体としてはぐくむ我が国固有の伝統文化で、文武両道、質実剛健を旗印とする国家、社会の繁栄と世界平和の実現に寄与する人間形成の道である。

よって、ここに、青少年の健全育成を主眼とする、平成二十四年度完全実施の中学校武道必修化を成功させるとともに、武道のさらなる振興発展が図られるよう、左記事項の早期実現を強く要望する。

記

一 平成二十四年四月に完全実施された中学校武道必修化が成功するよう、施設、用具、指導者の条件整備をより一層推進すること。

二 特に、指導者については、教員養成大学で武道を必修化し、中学校教員採用試験に武道を試験科目として位置付けるとともに、武道有段者の学生を積極採用するよう各都道府県教育委員会に働きかけを行うこと。さらに、充実した授業が実施できるよう優れた外部指導者を各中学校に配置し、処遇改善を図って、指導に万全を期すること。また、全国一万余校の中学校体育教員を対象とした武道指導者講習会を、関係武道団体の協力を得て、実施すること。授業に当たっては、

内閣総理大臣祝辞

平成二十八年武道振興大会のご盛会、誠にめでとうございます。

武道は心技体を一体として鍛え、人格を磨き、道徳心を高め、礼節を尊重するという我が国が世界に誇る伝統文化です。「礼に始まり、礼に終わる」武道が我が国のみならず、広く世界の人々に愛され、親しまれていることは大きな喜びです。

武道が中学校の必修となり、次代を担う子どもたちが伝統の武道に触れることで、心身ともに健全に育つことを期待しています。

また、四年後にはオリンピック・パラリンピックが開催されます。世界の多くの方々が競技種目である柔道のみならず、我が国の伝統文化である武道の神髄に触れ、さらに理解が深まっていくことでしょう。結びに本日も参集の皆様には、武道振興にご尽力されていることに感謝申し上げますとともに、武道を通じた国際親善の増進のためお力添えをいただきますようお願いし、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。

平成二十八年三月二日

内閣総理大臣 安倍 晋二

時間を増やし、複数種目の実施校拡大を図り、武道ならではの教育効果が上がる「礼」を重視した指導を徹底すること。これに関わる武道九種目の指導者研修会や指導法研究、指導書作成等、関係団体の諸活動に必要な支援、助成を行うこと。

三 二〇二〇年オリンピック・パラリンピック東京大会の成功に向け、柔道、空手道への支援を強力に推進するとともに、会場となる日本武道館の建物・設備の増改修工事に最大限の支援・助成を行うこと。また、武道の国際的普及振興を確かなものとするため、日本武道代表団や武道指導者の海外派遣事業をより一層推進し、必要な支援、助成を行うこと。

四 将来の小学校における武道授業の実施へ向け、実践校における実践研究をより積極的に展開し、発達段階に応じた武道九種目の指導法研究を行い、準備を推進すること。

五 全国的な武道の普及振興をより確かなものとするため、全国都道府県立武道館協議会の活動に対する支援と、各都道府県武道協議会の設置促進に必要な支援を行うこと。

六 武道の源流である一千数百年の歴史を有する古武道の保存・継承を図るため、文化財指定について所要の措置を講ずるとともに、必要な支援、助成を行うこと。

七 武道場の整備については、中学校武道必修化を含め、国の補助制度を拡充するとともに、必要な支援、助成を図ること。

以上、武道議員連盟・日本武道協議会・日本武道館三者によつて共催する武道振興大会の名において決議する。

平成二十八年三月二日

各武道代表者に聞く

各連盟・団体の代表者に、武道必修化4年を経過しての現状と課題、スポーツ庁への要望を含めた今後の対策について話をお聞きした



少林寺拳法連盟
新井庸弘会長



日本相撲連盟
南和文副会長



全日本柔道連盟
中里壮也事務局長



全日本なぎなた連盟
佐藤浩市会長



全日本空手道連盟
笹川堯会長



全日本剣道連盟
松永政美副会長



全日本銃剣道連盟
酒井健会長



合気会
植芝守中央理事長



全日本弓道連盟
岡本仁副会長兼専務理事

◎柔道

中里壮也全日本柔道連盟事務局長
「まだ指導体制が十分といえない部分がありますので、鋭意努力しているところです。今後引き続き指導者の育成ということ、力を注いでいかなければいけないと思っています。また、スポーツ庁には柔道経験者を外部指導者として、もう少し積極的に推進して頂きたい。教育経験の長い、熟練した指導者が活躍できるような環境づくりをしてもらえたいです」

◎剣道

松永政美全日本剣道連盟副会長
「もともと剣道は正課として行っているところもありましたので、順調に推移しています。剣道は、アキレス腱を切るということがあります。ケガの少ない種目です。今後安心して色々な方が剣道をやることで発展し

ていつてほしいです」

◎弓道

岡本仁全日本弓道連盟副会長兼専務理事

「弓道の実施校は現在全国で18校です。ほとんどの中学校では柔道と剣道を実施している状況です。武道授業は色々な選択肢があつていいと思います。様々な選択肢を実現するために、各都道府県でモデル授業を行つてはどうでしょうか。県内で必ず武道9種目すべてが実施されるよう、どんなに少ない実施率の種目も、モデル校で必ず実施するようにすればよいと思います」

◎相撲

南和文日本相撲連盟副会長

「相撲は、学習指導要領に明記してもらっています。しかし、柔道、剣道には及ばず、実施率はガクッと下がっております。そのために、学校現場の声を聞きながら、教員に対するアプローチ、採用しやすいような指導方法の確立を目指していきま

上げるために、我々が努力し、マツト土俵にするとか、土俵なしにするとか、まわしはズボンの上にするとか、色々工夫を重ねています」

◎空手道

笹川堯全日本空手道連盟会長

「学習指導要領には柔道と剣道と相撲の中から一つ選んでくださいと書いていない。私は教育の機会均等ということを考えて、なるべく早く見直しをして頂けるようお願いしたい。武道協議会には9つの武道が入っているから、全部その中から選択をして自由に選んでくださいという風に書き換えて頂ければ、私

のかということを多くの方に理解して頂くことで、採用校増加に繋がたいと思っております」

◎少林寺拳法

新井庸弘少林寺拳法連盟会長

「少林寺拳法は、一校でも採用して頂ける学校が増えるように取り組んでいきたいです。学習指導要領の表記の問題で門前払いされてしまうので、しっかりと9武道を連記して頂くということが一番の課題です。その上で自分たちは平等な立場でやっていきたいです。自分たちの努力も大切ですので、しっかりと取り組んで参ります」

◎なぎなた

佐藤浩市全日本なぎなた連盟会長

「必修化して指導者が足りないという問題がありますが、全国に60校も採用して頂いている学校があるという事で感謝しています。指導者の育成という事でこれはしっかりとやらなければならぬという事を考えています。今年、今まで以上になぎなたの普及促進に全力を上げようと思っております」

◎銃剣道

西井健全日本銃剣道連盟会長

「平成24年に武道必修化がはじまりましたが、銃剣道は3年間どの中学もやっていませんでした。そして、今年の1月、神奈川県の中学校で初めて銃剣道の授業が始まりました。まだ全国にたくさんある学校の中の一校ですので、これからいかに増やしていくか、いろいろ努力をしているところです。問題は、銃剣道を指導できる教諭が全国に二人しかいないことです。これをいかに増やしていくかということが大きな課題です」

◎高橋道とスポーツ庁次長

「必修化について、アンケートでは、礼節やマナーもしっかり考えてきているなど高い評価がある一方、成り立ちの理解や授業自体が好きかといったところは体育全体として低いので、今後の指導改訂に活かしていきたいと思えます。それから必修化に伴って、事故が決して起きないように対応していきたいです」

武道議員連盟総会

武道必修化の条件整備を より一層推進



松永光日本武道館会長



高村正彦武道議員連盟会長



山谷えり子武道議員連盟理事



北川知克武道議員連盟理事・事務局長

武道議員連盟総会は、武道振興大会に先立って、3月2日午前11時30分より憲政記念館で開催された。会議には71名の国会議員（代理出席を含む）と、日本武道館・日本武道協議会役員、スポーツ庁幹部の計87名が出席し、当年度の収支報告、スポーツ庁の武道振興施策の説明、日本武道協議会の現場報告、質疑が行われた。

会議は福岡資麿武道議員連盟事務局長の司会進行で行われた。

はじめに、高村正彦武道議員連盟会長が挨拶に立った。

「常日頃から武道振興にご尽力を頂きます。ありがとうございます。有意義な意見交換をよろしくお願ひします」

次に、松永光日本武道館会長が、「武道がますます国民の間に定着し、日本は武道の国であるということが認められてきて、大変良いことであると思います。これからも日本の独特の文化である武道をますます発展させ、力強く日本国民は生きていくんだという姿を世界に向けて発信できるように、武道館としては頑

張っていきたい」と挨拶を述べた。続いて、事務局報告として、北川知克武道議員連盟理事・事務局長から役員名簿と会計報告及び決議文の説明がなされ、内容が承認・可決された。

その後、国の武道振興施策として、高橋道和スポーツ庁次長が、予算と施策について報告を行った。

まず、武道等指導推進事業（武道の指導成果の検証）調査報告書で、中学校の柔道、剣道、相撲の授業において、「ルールやマナーを守ろうとしているか」、「礼など伝統的な所作ができていないか」等について非常に高い比率であると報告した。28年度の武道関係予算は53億9千万円を確保し、昨年度より1億2千万円の増額となった。日本武道館への補助金は、6千万円とし、今後とも支援充実を図っていく旨の説明があり、「中学校武道必修化に伴い、国民の間では、事故などへの不安が広がりました。これに対して、研修をしっかりと行う、正しい情報を発信することなどで対応し、中学校における柔道の授業で、死亡または重大事故の発



小池百合子衆議院議員



升田世喜男衆議院議員



高橋道とスポーツ庁次長



酒井健
全日本銃剣道連盟会長



栗原茂夫
全日本空手道連盟副会長



大島章宏武道議員連盟副会長・理事長



会議の様子

生はございません。しかしながら、運動部につきまして、昨年度まではなかった、2件の大変痛ましい事故の報告がございました。スポーツ庁としては、引き続き武道における事故防止の徹底をはかつて参りたいと考えております」と述べた。

続いて、日本武道協議会の現状報告へと移り、栗原茂夫全日本空手道連盟副会長が次のとおり述べた。「中学校の武道必修化について、空

手道は平成24年スタート時点で124校ありました。現在は、213校に増えております。今後とも空手道の持つ安心と安全性、そして楽しさや素晴らしさを生徒に伝えながら一校でも多く採用されるべく、今後とも努力していきたいと思えます」

その後、酒井健全日本銃剣道連盟会長が次のとおり述べた。

「中学校の武道必修化が3年経過するまで、まったくのゼロでしたが、今年の1月に、神奈川県平塚市立の土沢中学校で授業を開始してくれました。できるだけ多くの中学校でやっていただけるように努力をしたいと思っております。」

それから国民体育大会、約35回連続して毎年実施競技としてやってまいりましたが、昨年から隔年実施競技となりました。

中学校にしても、国体にしても、我々の努力次第でどうにでもなるという意気込みで努力していきたいです」

質疑では、山谷えり子武道議員連盟理事が「本物の武道家の皆様方に学校の中に入って頂いて、武の道を

求め続けて鍛錬をされている方の存在、生き方、人格を感じてほしいが、外部指導者の活用が少ない。現場にきつちりと外部指導者活用が広がるようにして頂きたい」、升田世喜男衆議院議員が「部活を持つ先生の負担軽減と報酬関係をかさ上げをしてほしい」、小池百合子衆議院議員が「国体の場で、武道をより定着・拡大していくというのは国体の使命でもあるのかと思います。ぜひ国体の方に銃剣道を通年、毎年参加できるようにご配慮頂きたい」、大島章宏

武道議員連盟副会長・理事長が「部活動における柔道の死亡事故について、なぜそういうことに至ったのかということとを解明して、二度と子供たちがそのようなことにならないように徹底した対策をして頂きたい。また、怪我をしたとき、事故が起きたときにはどうするか、対応策をしっかりとつて頂きたい」と意見を述べた。

これに対し、高橋次長は「外部指導者の充実に関しては、今後しっかりと調べながら、教育委員会の働きかけもしっかりとやっていきます。

部活動指導の先生の負担軽減と報

酬関係ですが、部活動手当については、増額を図っております。また、部活動指導の先生方の負担を軽減する対策については、しっかりと文科省として考えていこうと思っております。

それから、国体への参加種目の件につきまして、一方で肥大化する国体をどうするかという様々な観点からの議論があるようでございます。今回のご指摘を踏まえながら、また日体協、開催県とも相談をしてまいりたいと思います。

最後に、大島先生から、子供が死亡するような事故は二度とないようにと強くご指導もございました。私どももしっかり肝に命じて、さらに指導の徹底に努めてまいりたいと思っております。特に柔道については、必修化に当たり、研修や指導通知というを行いました。今回のような痛ましい2件の事故を反省に、しっかりと対応していきたいと思っております」と答えた。

最後に司会の福岡事務局次長が閉会を宣し、会議は終了となった。

武道議員連盟役員名簿

会 長	高村 正彦 (自民)		
副 会 長	赤松 広隆 (民主)	江渡 聡徳 (自民)	衛藤征士郎 (自民)
	大島 理森 (自民)	大島 章宏 (民主)	河村 建夫 (自民)
	鴻池 祥肇 (自民)	小坂 憲次 (自民)	塩谷 立 (自民)
	高木 陽介 (公明)	前田 武志 (民主)	
理 事 長	大島 章宏 (民主)		
理 事	逢沢 一郎 (自民)	有村 治子 (自民)	江田 康幸 (公明)
	北川 知克 (自民)	羽田雄一郎 (民主)	森 英介 (自民)
	山谷えり子 (自民)		
事 務 局 長	北川 知克 (自民)		
事 務 局 次 長	福岡 資麿 (自民)		

武道の振興について

スポーツ庁
(27年度予算額 52.7億円)
28年度予算案 53.9億円

1. 武道指導の充実

(1) 武道場の整備

46.7億円

中学校学習指導要領保健体育科において必修となった「武道」の安全かつ円滑な実施のため、中学校武道場新改築事業に対する国庫補助を行い、整備促進を図る。

- 公立中学校武道場、地域武道センターの整備（学校施設環境改善交付金）
- 私立中学校等武道場の整備（私立学校施設整備費補助金）

(2) 指導内容の充実

5.7億円

○武道等指導充実・資質向上支援事業

武道等の指導を担う教員の資質向上、指導の充実等を図るため、体育教員の資質向上プログラム開発・実践、地域や学校の実態に応じ複数の武道種目を実施するなどの特徴的な取組、関係団体における武道指導に関する支援体制の強化等の取組を支援する。

○運動部活動指導の工夫・改善支援事業

スポーツ医・科学等を活用した指導体制の構築、多様な運動部活動づくりに向けた指導内容・方法の工夫改善、指導者の研修機会の充実を図ることにより、体罰を根絶し、適切な内容・方法による運動部活動を推進する。

○体育活動における課題対策推進事業

体育活動中の事故防止、科学的知見やデータに基づく効果的な体育活動の実施など、様々な課題に対応した取組を推進する。

○学校でのオリンピック・パラリンピック理解促進事業

全国の学校でオリンピック・パラリンピック教育を促進するための指導参考資料（映像教材等）を作成する。

○スポーツ庁等が実施する武道講習会

（独）教育研修センターや武道関係団体との共催により、体育担当教員や武道の部活動指導者を対象として、各地域のリーダーとなり得る教員を養成するための武道講習会を実施。

【参考：都道府県教育委員会における取組】

・都道府県教育委員会が実施する武道講習会

各都道府県教育委員会が、武道の指導経験の浅い体育担当教員を対象とした基本的技能習得のための講習会や、体育担当教員等を対象とした講習会を実施。

(3) 武道関係教材等の充実

平成24年度から、10か年にわたる「義務教育諸学校における新たな教材整備計画」に基づき、所要の地方財政措置が講じられている。

2. 武道団体への支援等

(1) (公財) 日本武道館への補助

0.6億円

日本武道館が実施する古武道保存事業、青少年武道錬成大会、武道指導者講習会及び武道国際交流事業に対して補助。

(2) (独) 日本スポーツ振興センターによる助成

競技力向上事業助成やスポーツ振興基金助成、スポーツ振興くじ助成等を通じて、団体の行う選手強化活動や武道教室等の事業などに支援。

（平成26年度実績額）

2.1億円

（平成27年度配分額）

5.9億円

●スポーツ庁資料

武道の振興について

28年度予算額 53.9億円

1. 武道指導の充実			2. 武道団体への支援
<p>(1)武道場の整備 ↓ 武道場の整備促進を図る (28年度予算額 47.6億円)</p> <p>○公立中学校武道場、地域武道センターの整備（学校環境改善交付金） ○私立中学校武道場の整備（私立学校施設整備費補助金）</p>	<p>(2)指導内容の充実 ↓ 指導者における指導力の向上を図る (28年度予算額 5.7億円)</p> <p>○武道等指導充実・資質向上支援事業 ○運動部活動指導の工夫・改善支援事業 ○体育活動における課題対策推進事業 ○学校でのオリンピックク・パラリンピック理解促進事業 ○武道講習会の開催等</p>	<p>(3)武道関係教材等の充実 ↓ 中学校における武道防具等の整備を図る</p> <p>○義務教育諸学校における新たな教材整備計画（地方交付税措置） ・「教材整備指針」に基づく教材の整備に必要な経費を平成24年度から10年間地方財政措置 (例)柔道畳、剣道防具一式等</p>	<p>(1) (公財) 日本武道館への補助 ↓ 日本武道館が実施する各種事業に対する支援を図る (28年度予算額 0.6億円)</p> <p>○古武道保存事業、青少年武道錬成大会、武道指導者講習会等</p> <p>(2)日本スポーツ振興センターによる助成 ↓ スポーツ振興基金やスポーツ振興くじ等を通じて団体が実施する各種事業に対する支援を図る</p> <p>○ドーピング検査事業、各種大会、選手強化合宿等 (27年度配分額 5.9億円)</p>

●スポーツ庁資料

武道等推進事業（武道の指導成果の検証）調査報告書（抜粋）

武道（柔道・剣道・相撲）の授業に対する意識調査（まとめ）

肯定的な回答（そう思う・だいたいそう思う）の割合

質問項目	柔道	剣道	相撲
	生徒数：5,577名 学校数：176校	生徒数：5,549名 学校数：181校	生徒数：946名 学校数：30校
武道の授業は好きですか	60.3%	53.6%	51.8%
学習課題を解決することに積極的に取り組もうとしていますか	80.7%	77.1%	77.2%
練習や試合などの場面で、ルールやマナーを守ろうとしていますか	95.3%	93.9%	94.0%
仲間と協力する場面で、教え合ったり助け合ったりしていますか	88.2%	85.9%	85.9%
礼など伝統的な所作ができていますか	91.5%	87.8%	87.3%
相手を尊重する態度を身に付けようとしていますか	88.8%	84.9%	84.0%
武道の成り立ちを理解することができていますか	67.8%	66.9%	71.9%
自分の課題を見つけ、自分なりに解決しようとしていますか	76.7%	74.0%	74.0%

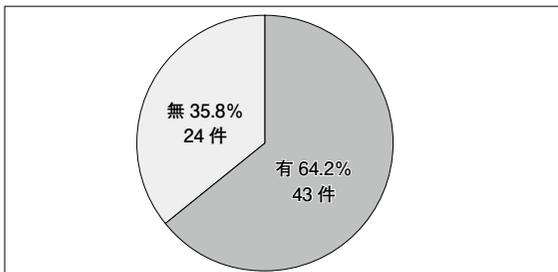
●スポーツ庁資料

都道府県・政令指定都市教育委員会

○教員対象の武道指導者研修会等の実施方法 (n=67、複数回答)

	回答数	回答率
文部科学省の「武道等指導推進事業」を活用して、大学教員等を講師として招聘して実施している	26	38.8%
独立行政法人教員研修センターの「子供の体力向上指導者養成研修」を受講した教員または指導主事が講師となり実施している	46	68.7%
都道府県・政令指定都市の競技団体（柔道連盟・剣道連盟・相撲連盟等）主催の研修会と連携して実施している	16	23.9%
都道府県・政令指定都市の予算で、専門的な知識や技能を有する講師（大学教員や競技団体推薦者）を招聘して実施している	23	34.3%
都道府県・政令指定都市の予算で、専門的な知識や技能を有する教員が講師となり実施している	23	34.3%
その他	4	6.0%

○外部指導者の派遣 (n=67)



○研修会の参加形式 (n=67、複数回答)

	回答数	回答率
悉皆研修（各学校から1名以上の教員の参加を義務づけている）	24	35.8%
希望研修	49	73.1%
その他	23	34.3%

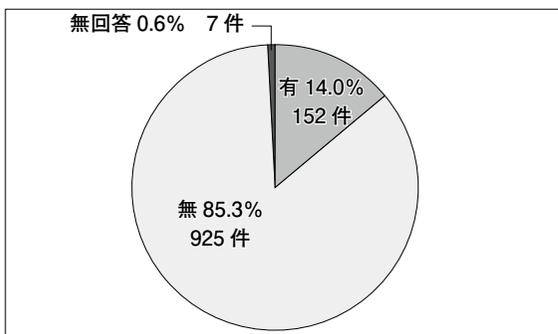
○予算措置している外部指導者の数 (n=43)

	回答数	回答率
柔道	358	62.5%
剣道	182	31.8%
相撲	9	1.6%
その他の武道	24	4.2%
合計	573	

その他の武道内訳：なぎなた11、空手道9、弓道2、少林寺拳法2

市区町村教育委員会

○教員対象の武道指導者研修会等の実施 (n=1,084)

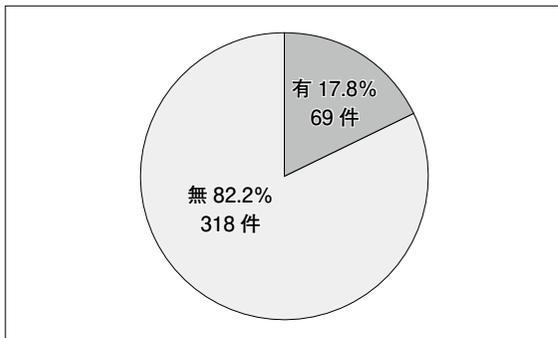


○予算措置をしている外部指導者の数 (n=271)

	回答数	回答率
柔道	434	62.9%
剣道	172	24.9%
相撲	12	1.7%
その他の武道	72	10.4%
合計	690	

中学校

○外部指導者の活用 (n=387)



○外部指導者を活用しての成果 (n=69、複数回答)

	回答数	回答率
生徒の関心意欲が高まる	58	84.1%
生徒の知識・技能レベルが高まる	62	89.9%
生徒の思考判断力が高まる	19	27.5%
教員の指導力が高まる	51	73.9%
安全配慮が高まる	50	72.5%
相手を尊重する態度が高まる	26	37.7%
その他	2	2.9%

好評発売中

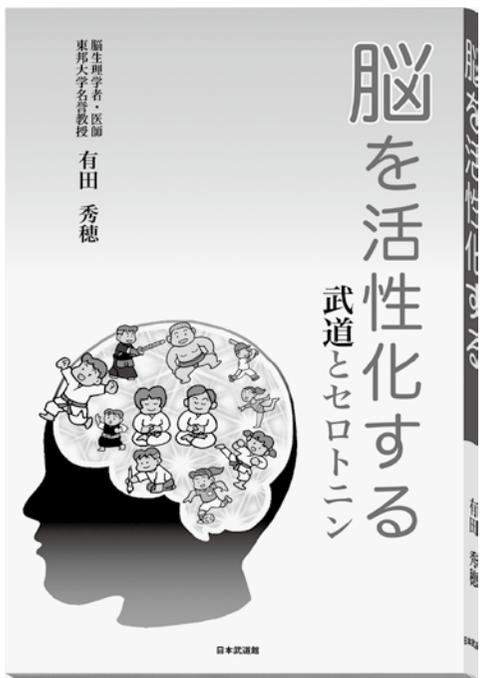
脳生理学者・医師
東邦大学名誉教授

有田 秀穂 著

脳を活性化する

武道とセロトニン

人間の心身を安定させ、「無心」の状態を作るセロトニン神経―その研究の第一人者が、丹田呼吸法を手懸かりに、武道や禅、日本文化を題材として、誰もが
できる脳を活性化する方法をわかりやすく解説。



A5判・並製・346頁・1600円+税

有田 秀穂
(ありた・ひでほ)

昭和23年(1948)東京都生まれ。東京大学医学部卒業。東海大学医学部助手、筑波大学基礎医学系講師、東邦大学医学部教授を経て、現在、東邦大学名誉教授。脳生理学者、医師。セロトニン道場代表。



主な内容

第1部 脳の活性化とは

坐禅とセロトニン

ストレッチとしごき

空海はセロトニン活性の達人

『弓と禅』に学ぶ身体トレーニング

沢庵の「不動智」とワーキングメモリー

不動明王と心の三原色

『弓と禅』に学ぶ無意識の自己意識

悪夢を消すには？

精進料理とセロトニン合成

「茶の湯」とセロトニンの生活

「自然に体が動いた」を脳科学で解く

勝海舟の「明鏡止水の心」を脳科学する

「武道の礼法」は社会脳を育む

相撲の「四股」は品性を育む

書道も心技体の人間修行

アンドロゲンと闘争心

日本の祭にはセロトニンがたっぷり

スキンシップとオキシトシン

空手の稽古は坐禅修行に通じる

脳は「丹田呼吸法」をどう操るか

試合における最適な覚醒状態

サイエンスは「気」をどこまで解明したか

仙人術を脳科学する

第2部 対談「武道で脳を活性化しよう」

日本武道館会長 松永 光

東邦大学名誉教授 有田 秀穂

： 他

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

(翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット)
(B5判・上製・DVD付・336頁)



武士道に学ぶ

皇學館大学教授
菅野 覚明 著
(四六判・上製・344頁)



武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家
小笠原清忠 著
(四六判・上製・278頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授
田代しんたろう 著
(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授
前林 清和 著
(四六判・上製・370頁)



<増補版>

私も武道経験者です

月刊「武道」記者
吉野 喜信 著
(四六判・上製・326頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授
中村 民雄 著
(四六判・上製・370頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者
田谷 将俊 著
(四六判・上製・376頁)



武道・ スポーツの真髄

スポーツドクター
辻 秀一 著
(四六判・上製・248頁)



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー
菅野 純 著
(四六判・上製・410頁)



武の素描

埼玉大学教授
大保木輝雄 著
(四六判・上製・220頁)

第28回国際武道文化セミナー

「武道の品格」を探る



村田直樹講師による講義「武道の品格」



4月上旬並みの穏やかな気候となった3月4日～6日、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターにて第28回国際武道文化セミナー（主催：日本武道館）が国際武道大学、日本武道学会の協力を得て開催された。

本年は「武道の品格」を主テーマとし開催。参加者たちは、菅野寛明講師の講義「日本の元徳」、村田直樹講師の講義「武道の品格」、別討論会「武道の品格」～武道の理念をどう活かすか～と受講、論議を重ね、武道の品格の知見を深めていった。

また、小澤智講師の講義・演武及び体験会「北辰一刀流剣術の伝承」、専門委員による現代武道の模範演武と実技研修、体験武道も行われ、充実した3日間となった。

◇
参加者数は日本在住の外国人武道修行者68名、日本人武道修行者20名の計88名。そのうち初参加が39名おり、初参加の日本人武道修行者の中には琉球古武術保存振興会会長の井上貴勝氏、講道館から桐生習作氏なども参加し、多彩な顔ぶれとなった。



午後2時より、第1研修室にて開講式、2時30分より、菅野覚明講師（皇學館大学文学部教授）による「日本の元徳」の講義となった。

講義では、礼、文武両道、誠について説明。文武両道とは現代では知と力の意味となっているが、それは明治以降であり、「ペンと剣」という西洋の考え方で「文武」を説明するため、そのようになった。しかし古来「文」は知性でなかった。日本神話に登場する最強の武人の典型は、スサノヲノミコト、オオクニヌシノミコト、ヤマトタケルノミコト

などで、古来の武人は力とともに豊かな感性を持ち合わせていた。つまり文とは本来は心、感情の能力である。であるから「大和魂」の本当の意味は、カミカゼのように果敢に挑むことではなく、優しい心をもって戦うことであると説明した。

講義の後、質疑応答となった。

Q ランディー・チャネル（カナダ・弓道） 話題になった、おもてなしは「日本の元徳」と関係がありますか？

A 菅野 古来、日本では見知らぬ人は神として接した。どんな相手でも侮つてはいけない、最大限の敬意を払うという元徳がありました。

Q フィリップ・ゴ（フィリピン・空手道） 現代の武道修行者と古来の武人では、どちらのほうがより元徳を大切にしていますか。

A 菅野 本来はもっていないければいけないのですが現代人は元徳を忘れかけていると思います。武道修練者は一般人に元徳を広める役割をもっているのではないのでしょうか。

Q 柴山誠一（日本・柔道） 中学校で外部指導者として柔道の授業をしています。礼を指導する際、子どもたちは「どうして試合に勝つたのに感情を表してはいけないのか」と質問を投げかけられます。どのように教えたらよいのでしょうか。

A 菅野 「試合に負けた相手の前で喜ぶのは思いやりがなく、家に帰って喜ぶなさい」と指導されてはどうでしょうか。

◇ 続いて、実技研修となった。2月上旬に床の張替え工事が終了したばかりの大道場で、各道の専門委員による指導の下、参加者は自身が専門とする武道の稽古を行った。



柴山誠一氏



フィリップ・ゴ氏



ランディー・チャネル氏



井島章(左)・網代忠宏(右) 専門委員(剣道)



質疑を行う参加者



真剣な眼差しで臨む参加者たち



意見を述べる参加者



窪田史郎専門委員(左・弓道)と伊東良専門委員(右・相撲)

2日目

国際武道大学に場所を移し、午前8時30分より、本セミナーコーディネーターでもある村田直樹講師(講道館図書資料部長)による「武道の品格」の講義となった。

「武道の品格」とは何か。有力な答えとしては「武技の修練を通して身につける人間としての上品な態度」があげられる。では、武道の品格はすべての人間が身につけることができるのか? 嘉納治五郎は「技術の練習のみに終始する在り方は、その練習内容の遂行に必要な力は養われるが、それだけである」という趣旨を言っている。つまり、技術練習は、技能はもとより「戦闘士として必要な精神面」を養うが、「人間として必要な精神面」の涵養はおぼつかないということであると説明。この矛盾点について、このセミナーで解明はできないにしても議論をしようと思っかけた(要旨別掲)。

最後に村田講師は、このセミナーを受講して品格が身につくわけではない。しかし、「武道の品格」とい

うテーマの討論会で知的な刺激を受けて頂き、多に考えてもらい、その考えの過程を楽しんでもらいたいと次の班別討論会につなげた。





大辻広文専門委員（柔道）が説明



佐藤亨専門委員（銃剣道）



フェアウェルパーティー

午前10時より、場所を3箇所に分け、3武道ごとA班からC班までの班別討論会「『武道の品格』〜武道の理念をどう活かすか〜」となった（要旨別掲）。

午後は研修センターに戻り、昼食・記念撮影を挟んで、専門委員、助手による講師演武会が行われた。弓道「一ツの射礼」が演武始め。

合気道「基本の投げ・固め技・自由技」、相撲「塵浄水、四股、あたり稽古」、柔道「極の形」、空手道「チントウ」「マツムラローハイ」、銃剣道「木銃対短剣の形」、なぎなた「全日本なぎなたの形」「試合稽古」、少林寺拳法「剛法・柔法・圧法」、剣道「木刀による剣道基本技稽古法」が次々に披露された。各界を代表する専門委員の模範演武に参加者は固唾を飲んで見学した。

各会場にて体験武道となった。武道の心得がある参加者たちは、専門としてない武道にもかかわらず、姿勢もよく、初めてとは思えぬような出来栄え。専門委員たちも「さすがだね」などと感心しながら指導にあたった。太平洋から柔らかな春の潮風が吹く中、指導者も参加者も心地よく汗を流した。

◇
フェアウェルパーティーでは、国際武道大学高見令英学長が挨拶、最終日の北辰一刀流剣術の小澤智講師等が紹介され、金澤威専門委員（合気道）が乾杯をおこなった。

参加者たちは、昼間語り尽くせなかった武道談義に花を咲かせた。



記念撮影（於：日本武道館研修センター）

3日目

午前8時30分より、小澤智講師(水戸東武館常任理事・館長)による講義

「北辰一刀流剣術の伝承」となった。

はじめに北辰一刀流の由来について説明。創始者である千葉周作(1794~1856年)は、江戸末期

の武士、剣術家。宮城県に生まれた。

父忠左衛門は江戸で医者、北辰夢想流剣術を教授。その後、小野派

一刀流剣術の浅利又七郎とその師中西忠兵衛の下で修業、22歳で免許

皆伝となった。全国の武者修行の旅に出て研鑽を積み、父が極めた北辰

夢想流剣術と浅利又七郎と中西忠兵衛の小野派一刀流剣術を合わせて北

辰一刀流を編み出した。

北辰一刀流兵法として、組太刀の形43本、小太刀の形5本、相小太刀

の形6本、刃引の形11本、薙刀の形29本にまとめた。北辰一刀流は、気

はやく、心は静か、身は軽く、目は明らかに、技は激しくの下、「切り

り落とし突き」と「乗り身」を極意とし、現代剣道の元を作ったと説明した。

続いて、北辰一刀流の模範演武が行われた。受は高山陽好氏、仕は上

田忠夫氏、演武内容は太刀組と小太

刀、受は北辰一刀流の特徴である

「鬼小手」を着用して披露した。体験

会では、高山氏から「怖がっては

ダメ、下がらず思いっきり向かって

いってください」と注意点があげら

れ、参加者は「バスト」「バスト」

と木刀が鬼小手にぶつかりあう特有

な音を鳴らしながら、稽古に励んだ。

実技研修、昼食を挟み、班別討論

会の概要発表の後、閉講式となった。

始めに、村田直樹コーディネータ

ーから挨拶があった。「この看板は、

白い下地に黒い文字が記されているからこそ、文字が読める。美しいもの

■参加者コメント

▽ユリア・キム(ウクライナ・空手道)



初めて国際武道文化セミナーに参加

しましたが、面白いですね。いろ

いろな武道が体験できるのは他には

なく、魅力を感じます。武道の品格

というテーマは難しいですね。各専

門委員の意見は参考になりました。

▽ジョン・レイス・ガルシア(ペル



ー・少林寺拳法)

20回以上参加しております。武道

の品格を感じるのには挨拶の場面。近

は手と手を合わせることで相手にあ

りがどうの意味を込めます。

▽アナ・マリ・アンソ(フランス・柔道・弓道・居合道)

初参加です。居合道の稽古をして

いますので、剣道の体験は、共通す

る部分が多く、いい経験になりました。

「武道の品格」の討論会は興味

深く参加しました。日本では神道を

基盤とした文化となっており、それ

が日本の品格にも現れていると思

います。国々で品格の表現方法は異

なるかもしれませんが。しかし、根底に

なるものは同じものだと思います。

だつてみんな人間ですものね。



「武道の品格」 講義概要



村田講師は議論を行う上で、5つの主張を説明した。

〈主張1〉品格は知・徳・体・情・意を背景にして成り立つ。

品格の指標を「知徳体および知情意」に求めてみる。知・徳・体・情・意の反対例には、知…何を言ってもまともな答えが返ってこない。徳…素行が悪い・不良・ワル。体…贅肉付き過ぎ・痩せ過ぎ・汚い身なり。情…不人情・恩着せがましい・無愛想。意…飽きっぽい・中途半端・優

柔。以上の反対例のいずれにも該当しなければ、品格の有る人と評価される。

〈主張2〉武道の品格には、技術の品格（その武道の技術形態という作品の出来映え）という側面もある。

日本武道協議会では、武道を「武技の修練による心技一如の人間形成を目指す文化」と定義している。武技・技術の修練といった場合、武道の品格とは、それぞれの武道の先人が悠久の歳月を懸けて到達し、完成し、制度化した技術の品格ということになる。つまり、それぞれの武道の技術形態の品格とも言える。

〈主張3〉武道の品格を「武技の修練を通して身につける人としての在り方の美のこと。その美は、知・徳・体・情・意という背景からにじみ出て漂い、薫るものである」と定義する。

〈主張4〉品格は、国によって、必ずしもその内容は同じではない。謙譲の美徳が日本での品格となる

が、国によっては素直に自分の意志を伝えることが品格であったりもする。ここで一つ疑問がでてくる。日本に来て武道に勤しむ練習者の場合、身につける品格とは、日本で暮らす際に通用させる品格と、自分の国に帰って暮らす際に通用する品格と2種類あるのか。このことについて検討する余地がある。

〈主張5〉強者必ずしも品格に優れず、弱者必ずしも品格に劣らず。徹頭徹尾、武技の修練に打ち込めば、品格が身につくのであろうか。

「まともに代えて」として以下を述べた。

武技の修練とは、その実際は、勝負の道と言え。武技の修練には、勝負の理論（戦略・戦術）が要請され、修練とは、練り上げた理論を実戦で試す場であり、成果を評価し、不足を補う試行錯誤の道であると言える。

勝負の理論を練り上げる作業は、

高度に知性を要する過程であり、この過程で実践し、成否を確かめるのである。行き詰まった時や迷った時、光明を見いだそうと、古文書を紐解くこともある。思いきって先輩や師を訪ね、直接教えを乞うこともあるだろう。こうして上には上があることを知り、自分の技、精神力、体力、即ち心技体の不足や未熟を悟っていく。書や先師から教えを授けられ、更なる精進を重ねて光りを見出した時、歓喜にむせぶはずだ。

こういう時、教えを授けられた先人や書物に対して感謝の念が生じ、感恩の情を催すことになり、改めて武道の修行に向かい合って謙虚になり、修行の尊さを真に知ることになる。修行者に武道の品格が漂い、薫る瞬間なのである。知徳体情意の働きたとそその積み重ねが、武道修行者としての専門教養を育み、そこで育んだ力を道場ではない実社会における人間（じんかん）交流の場で応用し得る時、武道の品格は、人間の品格へと一回り大きくなってその次元をあげることになる。

班別討論会

「武道の品格」〜武道の理念をどう活かすか〜 概要

A班（柔道・少林寺拳法・銃剣道）
司会者：石井兼輔（国際武道大学教授）



け寄ろうとしたが、ヘーシンク選手はこれを手で制して試合場まで上がらせなかった場面。

この事例について議論、様々な意見が出される。後にヘーシンクはこの件についてコメントを残している。「相手に礼を尽くし、観客に礼を尽くし、試合場に礼を尽くし畳を下りた後、初めて自分の喜びを感じることが出来る。それまでは何人たりとも畳に上がることはできない」。

柔道では、アントン・ヘーシンク氏（オランダ・1934〜2010年）の2つの事例を提示。1つは、1961年パリ世界柔道選手権大会決勝戦（対・曾根康治）。ヘーシンク選手が一本勝ちした際、オランダ関係者が畳の上に土足で駆け上がり、ヘーシンク選手を胴上げした場面。

もう一つは、1964年東京オリンピック柔道競技決勝戦（対・神永昭夫）で一本勝ちした際、再び関係者が歓喜のあまり畳の上上がり駆け

なく、人間の中身、本質にある。本質とは謙虚、健全、思いやりである。

現在、少林寺拳法では試合はなく、同志を作り連帯感を養うことが一つの国づくり、人間形成であるとし活動している。

銃剣道では、修練を積み心技体をバランスよく鍛えることが品格につながる。武道の存在意義を高めるものにも繋がると考えている。

基本的な生活習慣の確立、礼儀作法、思いやり、これらを育む指導法を常に心掛けていく。

興味深い参加者の主張として、学校教育では知識、教養が得られるが、人間としての心構えが得られるのかは疑問が残る。わきまえる徳性を武道で技を学ぶ以前のものとして捉え、武道修行の最重要課題とし、師弟同行で修行者は学ぶべきであるとの意見が出された。

各武道の最終的な目標はほぼ同じである。それは、社会に貢献できる人間の育成、品格ある人間の形成にある。各武道の修行方法は異なるが最後はそこにたどり着く。また人生はすべて修行である。品格とは心技体がバランスよく鍛錬された所作か

ら醸し出されるもので一時的なものではない。日々の自己研鑽の大切さをひしひしと感じられる討論会であった。

B班（剣道・空手道・合気道）
司会者：田中守（国際武道大学教授）



武道の品格とは簡単に答えが出せるようなものではないが、村田先生の講義内容を一つの切り口として討論会を行った。武道そのものに感じられる品格とはどのようなものであろうか。その点を議論した。様式美・立ち居振る舞い、礼儀作法、精錬された技、それから厳かさ、それらは武道そのものが持つ品格といえるのではないか。例えば「残心」などの所作に集約されるものは品格といえるのではないかなどの意見も出た。それ

以上に武道の持つ美というより、人の問題として捉えるという意見が多くあった。品格のある武道修行者は愛情を持って人に接し、相手の全てを全力で受け止め、自我や自己の本能を制御できる者であろう。品格の有無は他者が評価するものであり、それを求め目指すものではない。反対に品格とは他者評価で決まるものでなく、自らの心のうちに形成されるものであろうという意見もあった。多くの外国人は品格、武道修行の目的等について高いレベルで問題意識を持って武道修行に励んでいるが、日本の特に学生などはその点が欠けているのではないかなどの指摘もあった。

現代の武道修行者に求められる品格を考えると、そこには古い時代、武士の立ち居振る舞い、心構え、これを一つの理想像とする観点から議論した。礼儀正しく、相手を尊重し、勝つて奢らない、鎌倉武士のその生き様は現代の武道が掲げる理念と相通じるものがある。しかし、現代の武道修行者の挑む心情は負けても次なる挑戦があり、敗北すなわち死であった武士の重みとは全く異なる。

その挑む態度は異次元のものであるという指摘があった。確かに武士の勝敗、生死の超越を同じレベルで扱うことはできない。古の武士たちが生死の中で培った品格に思いを馳せれば、勝った、負けたと一喜一憂する現代の武道のあり方そのものを改めて見直さなければならぬのかもしれない。時代ともに武道、武道に求められるものは変化するが、いつの時代であっても我々が大切にしなければならぬものは必ずある。「不易流行」この中に現代の武道の品格を考える上でのヒントがあるように思える。

最後に各専門委員から感想を求めたが、共通することは以下であった。「修練の積み重ねからなる技と姿に表れる他を尊重する心の豊かさこそが品格ある人材を作りあげる」なんのための武道修行であるのか、一人一人が自覚を持つことが求められるのではないか。

C班(弓道・相撲・なぎなた) 司会者:松尾牧則(国際武道大学教授)

技術のレベルが高くとも品格がない人がいるのではないかという議題



から論議は始まった。技術レベルが高くとも確かに品格のない人はいらぬ。技術のレベルではなく品格のない人間は、武道の修行をしていないのではないか。仮にレベルは低くとも品格を身に付けることはできるのでないか。そのようなことも考慮して武道修行に取り組むのが重要であるなどの意見が挙げられた。

では、品格を高めることに特化するれば、技術を高めることは必要ないのかと司会者が投げかけたところ、弓道では品格がなければ技術は成り立たない。品格と技術を切り離すとそれは武道の品格ではなくなるなどの意見が寄せられた。

次に、指導の中で技術だけでなく精神の指導もしているのかと専門委

員・参加者に尋ねた。

▽窪田史郎専門委員(弓道)

「行っている。道場に入る時、道場に対して礼をする。スリッパを整えるなど技術以外の指導を行う」

▽伊藤良専門委員(相撲)

「小学生の指導では始めに感謝を教えることが大切。レベルに応じた指導が大切で、品格に通じることも同様である」

▽学校関係の参加者

「自ら困難を克服したものは、次に他者が困難に直面した時、助けられるようになる。それは品格といえるのではないか」

各武道での修練による人間形成は共通している。大切なことは今の時代にふさわしい武道でなければいけない。そして武道の品格も今の時代が求める武道の品格でなくてはならない。技術の上達は人格の向上ともにもあり、技術と精神とは繋がっている。指導者を信頼していなければ師の品格は越えられない、師を信頼することが大切である。また、強い者に品格が備わっているとは限らないが、品格が備わっていればそのものはさらに強くなるはずである。

模範演武



柔道



弓道



相撲

体験武道・実技研修



少林寺拳法



短剣道



なぎなた



空手道

古武道講義・演武及び体験会



小澤智講師



高山陽好氏(左)と上田忠夫氏(右)による模範演武



【講師】

菅野覚明(皇學館大学文学部 教授)

村田直樹(講道館図書資料部長)

小澤智(水戸東武館常任理事・館長)

【専門委員・助手】

柔道・大辻広文六段、石井兼輔七段、

大島修次七段、越野忠則六段

剣道・網代忠宏範士八段、井島章

教士八段、丸橋利夫教士八段、

岩切公治教士八段、

弓道・窪田史郎範士八段、坂本武

彦教士八段

相撲・伊東良五段、松永久志三段、

西澤元康三段

空手道・岡林俊雄教士八段、渡邊

純一錬士七段

合気道・金澤威七段、森智洋六段

少林寺拳法・合田雅彦正範士七

段、村瀬晃啓准範士六段

なぎなた・小野恭子範士、高橋登

子教士

銃剣道・佐藤亨範士八段、小川功

範士八段

【班別討論会司会者】

A班・石井兼輔(国際武道大学教授)

B班・田中 守(国際武道大学教授)

C班・松尾牧則(国際武道大学教授)

【講師助手(北辰一刀流剣術)】

高山陽好、上田忠夫、吉田信二、

兼子勝喜、田中榮治、桐原英夫

【講師演武会演武者】

高野賢司(柔道)

【コーディネーター】

村田直樹(講道館図書資料部長)

【通訳者】

アレキサンダー・ベネット(ニュ

ージーランド・関西大学教授)

ジョン・オコネル(ニュージー

ランド・南山大学准教授)

ブルース・フラナガン(オースト

ラリア・東京理科大学講師)

ソリドール・マーマヤ(ドイツ・

津田塾大学専任講師)

好評発売中

平法

天真正伝香取神道流 師範

大竹利典 著

天真正伝香取神道流

近世剣術の源流として知られる天真正伝香取神道流の全伝を受け継ぐ著者が、その膨大な武と知を語る。



(四六判・上製・296頁)

香取神道流の歴史、剣術・居合術・薙刀術・手裏剣術などの武術、方術・築城術などの遁甲術や軍学兵法を、伝書を基に紹介。
さらに、七十年近い修行人生を振り返り、武を志す全ての者に必要な「平法（へいほう）」の思想について語る。

目次

序章	香取神宮御由緒
第一章	歴史篇
第一節	経津主大神の真伝、「天真正伝香取神道流」
第二章	修行篇
第一節	入門
第二節	林先生に師事
第三節	香取神道流最初の異国の門弟
第四節	流祖生誕六百年記念祭
第三章	技術篇
第一節	剣術
第二節	居合術
第三節	棒術、薙刀術、槍術、手裏剣術
第四節	柔術
第五節	忍術
第四章	軍学兵法篇
第一節	遁甲術
第二節	刀剣と密教
第五章	思想篇—全ての修行者へ—
第一節	修行者の心得
第二節	兵法は平法なり—平和を願う偉大なる教え—



編集・発行 日本武道館
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



(B5判・上製・箱入・462頁)

古流武術研究者

横瀬

知行 著

日本の古武道

直接取材による2000枚の写真と豊富な資料で古流の全貌を紹介!

日本の古武道には長い歴史と伝統があり、流祖に始まる一子相伝の脈々たる生命の大河を貫く知恵と経験が一つの見事な体系となって現代に伝えられている。

月刊 心 技 体 人を育てる総合誌

武道